
■ さろん | Mail News 2018/11/15 | #126 ■ 【読み物号】

ご案内不要の方はお手数ですがこのメールにそのままご返信ください。

哲学カフェ及び関連イベント情報をお送りします。みなさんの興味・関心の一助としていただくとともに、今後とも「さろん」を応援いただければ幸いです。

なお、このメールニュース掲載のコラム等は執筆者の個人的な考えを表したものです。

会や専門領域における統一見解や事象を扱っているものではありません。予めご了承ください。

====Vol.126 2018年11月15日(木)====

さ | ろ | ん |

└ ┬ ┬ ┬

M | a | i | l | N | e | w | s |

└ ┬ ┬ ┬ ┬ ┬ ┬ ┬ ┬

<http://salon-public.com/>

(バックナンバーはHPからご覧いただけます)

<https://twitter.com/salontetsugaku>

<https://www.facebook.com/salontetsugaku/>

INDEX

| 【1】ふくろう広場 (会からのお知らせ)

| 【2】(11/29) 夜さろん 第18夜《定点観測としての読書会

| ~川上未映子『ウィステリアと三人の女たち』~》

| 【3】コラム/エッセイ

| ◇『かわいいとかっこいいについて思う』

| 【ご案内】《さろんラボ》

| 【4】コトバをハーバリウムする

| 【5】さろんアーカイブの遊歩道

| 編集後記

CONTENTS

【1】会からのお知らせ

ふくろう広場

1) さろん催事のご案内

<http://salon-public.com/>

●11/17【さろん哲学 第99回】

11/17 (土) 15:00 - 17:00

担 当：堀越

テーマ：「差別はなぜ起こるのか？」

カフェ・ミヤマ渋谷公園通り店2号室

●11/23【さろんコラボ哲学「怒り+マンガ」】

ブラジル人マンガ家、モクタン・アンジェロ氏とのコラボ哲学カフェを開催します。

古代ローマの哲学者セネカの『怒りについて』を基にした氏の最新刊

『レオノーラの猛獣刑』を題材に、「怒り」についてマンガを入口として、

考えたり話しあったりしてみます。

日 時：2018年11月23日（金・祝）15:00-18:00

テーマ：「怒り+マンガ」

進 行：芹沢+堀越 feat.モクタン・アンジェロ氏

会 場：カフェミヤマ渋谷公園通り店2号店

参加費：1500円程度（予価）

定 員：12名程度

●12/9（日）9:05 - 12:00「眠れる分度器」（山田詠美）

現在開催中の朝さろん〈リクエストシーズン〉。

12月は川崎さんが推薦&進行を担当します。

進 行：川崎さん

<https://www.shinchosha.co.jp/book/103616/>

名著『ぼくは勉強ができない』所収の番外編です

<http://salon-public.com/>

●12/15【さろん哲学 ★第100回記念特別回★】

12/15 (土) 15:00 - 19:00

担 当：野田

100回記念例会@中目黒

さろん哲学（例会）もついに大台です。

毎月1回のシンプルな積み重ねをあらためて言祝ぎたいと思います。

例会後、「Good Neighbors Party（アフターパーティ）」を同会場で実施します。

●12/22（【さろんクリスマスパーティー2018】

12/22 (土) 午後 - 夕方

実行委員長：堀越

アレですね。毎年恒例の。クリパ。

初めての方も、数年ぶりの方も、とことん一緒になごみましよう。

今年も、実行委員長が全力投入です。

この2018年を思い残すことなく、存分に楽しみ、走り抜けましょう！

——【2】夜さろん 第18夜——

(11/29) 夜さろん 第18夜

《定点観測としての読書会 ～川上未映子『ウイステリアと三人の女たち』～》

<http://www.shinchosha.co.jp/book/325625/>

11月29日(木)の19時30分から開催です。

川上未映子『ウイステリアと三人の女たち』(新潮社)をお読みになっていらしてください。

@渋谷です

参加費：1000円

(幹事：せりざわ)

——【3】コラム/エッセイ——

▽【かわいいとかっこいいについて思う】

一生

▽【かわいいとかっこいいについて思う】

一生

巷に溢れる「かわいい」を聞いて、思い出した。2016年の放映ドラマ「逃げるは恥だが役に立つ」では多くの台詞が話題となった。中に次のシーンがある*1。

平 匡：(背後からハグしてきたみくりに対して)「かわい過ぎるんですが…」。

みくり：「それはこっちの台詞です。平匡さんがかわいくてかわいくて。崖から叫びたい気持ちでいっぱいです」。

平 匡：「男でかわいいというのは…」。

みくり：「かわいいは最強なんです。かっこいいの場合、かっこ悪いところを見ると幻滅するかもしれない。でも、かわいいの場合は何をしてもかわいい。かわいいの前では服従。全面降伏なんです！」。平匡：「わかるような…、わからないような…」。

みくり：「(平匡さんは)今のままでいいんです」。

かっこいいがかわいいに負けるのか。無性にかっこいいに加勢したくなる。かっこいいは、かっこ悪いところがかえってかっこいいではないか。例えば、イスカダールを目前にガミラス艦隊からの攻撃で大破する(かっこ悪いところ)が、残るエネルギーを集中した波動砲を放ち敵艦を撃破する宇宙戦艦ヤマト(かっこいい)。ジオングからの攻撃に左手や頭部を破壊され、前例ない程に傷つく(かっこ悪いところ)が、相手を倒すために残る右手でビームライフルを放った初代ガンダム(かっこいい)。使徒からの加粒子砲による攻撃に満身創痕となる(かっこ悪いところ)が、ポジトロンライフルで応戦して撃破するエヴァンゲリオン初号機(かっこいい)。

なぜか思い浮かぶのは古いアニメばかり…。

ここで気づく。ドラマの主人公は「かっこいいの場合、かっこ悪いところを見る」ときがあると指摘しただけで、例外を挙げても反論にはならない。ただ、上例は観点が戦う姿と言うより戦法にあらう。観点を混同し、視覚（感性）的判断はかっこ悪いままなのに、思考（理性）的判断でかっこいいと判断したか。弱者が強者に勝つ際に抱くカタルシスを混同した錯覚か。強者（素直に善いと思える元の形容状態）に対して仕返しを欲する鬱屈した弱者の心理（ルサンチマン）が判断を歪めたか。いずれにせよ、俯瞰すれば、かっこいいの判断は観点が複眼的なのではないか。さらに、この観点の複眼性は、かわいいにも当て嵌まるのではないか。いつか、「かっこいい」について対話をしてみたくなった。

*1：2016年10月放送のTBSテレビドラマ：第10話

—— 【ご案内】 ——

《さろんラボ》

名称：【さろんラボ】

コーディネーター：【堀越】

- ・哲学カフェを自分で開きたいけど、どうしたらいいかわからない…。
- ・読書会を自分で主催したいけど、自信がなくて…。

そんなときこそ「さろんラボ」がお力になります。さろんラボでは、みなさまの「やってみたい」を核に、さろんを触媒にして、どんな化学変化が起きるかを試みる場です。

ご参考までに、このラボからは、さろんの参加者の手で、以下の二つの活動がうまれました。

【さろんラボ 001】 「あたまの中を散歩するてつがくカフェ」

<http://sanpo-tetsugaku.jimdo.com/>

【さろんラボ 002】 「哲学カフェ Ante-table/アンティ・テーブル」

<http://ante-table.wix.com/ante-table>

既存の哲学カフェのカタチに限定せず、みなさんの中で温まっている関心事やご興味を添えて、どうぞお気軽に下記までご連絡下さい。みなさんとの新しい化学変化を、スタッフ一同心から楽しみにしています。

▽詳細はこちらまで

salontetsugaku@gmail.com （担当：堀越）

【4】

コトバをハーバリウムする #36 (クスノキ)

本のコトバから

精神を病むということは深く沈みきること、人間のもつ最も原始的な地盤に帰るということになるのかも知れない、と彼は考えた。そのくせ病人たちはそのような共通な同質なものになりながら、逆にお互になんらの疎通性も持たなくなる。かえって彼らは狭くらしい固有な小世界の中に閉じこもってしまうのだ。

——北杜夫『夜と霧の隅で』

歌のコトバから

白か黒かで言ったら黒だと思う
大人か子供かで言ったら大人だと思う
嘘か本当かで言ったら、うーん、嘘かもしれないと思う
思うだけで実際はわからない
だってそんなもんでしょ

——ゲスの極み乙女。『いけないダンスダンスダンス』（作詞：川谷絵音）

【5】

さろんアーカイブの遊歩道 #30 (ネムノキ)

カテゴリ：【さろん哲学 議事録】 第40回

テーマ： 「精神的な豊かさ」

開催日： 2013年12月23日(土)

http://salon-public.com/wp-content/uploads/2017/02/salon_giji_40.pdf

カテゴリ：【さろん哲学 議事録】 第51回

テーマ： 「日常」

開催日： 2014年11月15日(土)

http://salon-public.com/wp-content/uploads/2017/02/salon_giji_51.pdf

日々の暮らしは、やらなくてはいけない事でいっぱいだ。毎日の通勤に夕飯の支度、宅配便の受け取りに歯医者予約。シャンプーの残りがほとんど無いのに気づいて、夜遅くにあわてて店まで

走る事もある。ひとつ仕事が終わったと思えばすぐに次の仕事が後に控えていて、まるでわんこそばだ。そのうち、壁に掛けたカレンダーがただの To Do リストに見えてくる。週末が、平日のあいだ溜め込んだ用事を片づけるだけの時間と化す。

そうやって慌ただしく時間に追われつつ、基本的には同じ事の繰り返しの毎日を過ごしていると、ふとした拍子に日常から逃げ出したくなる。仕事や生活上の義務なんかぜんぶ投げ出して、南の島でヤシの実でも採って暮らそうか。SNSや満員電車とは無縁の、朝日と共に起き日が沈んだら眠りにつく、素朴で慎ましい生活をしよう。そんな毎日の中にこそ精神的な充足があり、他者とのたしかな繋がりがあるはずだから——私はお決まりの南洋幻想を引っ張り出してきて、ここではないどこかを夢見始める。

でも本当はわかっている。そこへ行きさえすれば憂いや閉塞感が消え、新鮮な喜びに満たされる、そんな夢みたいな場所は無いって事を。いくら外部の環境条件が素晴らしくても、それがおのずと内面の充足をもたらす訳じゃない。幸せは、外界とじぶんとの相互作用から生まれてくるのだから。美しい南の島に憧れることもない。私が今いるこの場所で私なりの豊かさを見つけられればいいだけだ。(…だから年末年始に休みが取れなくなつて、ぜんぜん悲しくないもん。)

編集後記

メールニュース第 126 号をお届けします。

今回始めて編集を担当しております亀です。

現在放送中の『僕らは奇跡でできている』というドラマに『うさぎとかめ』で亀は何故寝ている兎に声をかけなかったか?』という問いが出てきました。

主人公の答えはこうです。そもそも亀は競争に興味が無い。頑張っているという意識も無い。

自分の視界の中に見えている世界を、ただ前に進むことが純粋に楽しいのだと。

年の瀬が近づくにつれ何かと慌ただしくなりがちですが、ゆっくりと日々の営みを味わう意識は忘れないようにしたいです。

それではまた次号でお会いしましょう。

編集: (亀)

さろん | Mail News 2018/11/15

⇒次号 (12 月 1 日頃発行予定)

さろん Mail News 第 126 号 / 2018 年 11 月 15 日発行【読み物号】

編集・発行: さろん

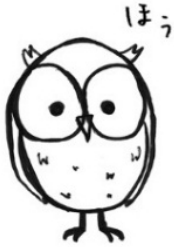
salontetsugaku@gmail.com

<http://salon-public.com/>

<https://twitter.com/salontetsugaku/>

<https://www.facebook.com/salontetsugaku/>

- ◇ 「さろん」にお知らせいただいたお名前・メールアドレスなどの個人情報は、
当会からのご案内のためだけに使用いたします。
また、ご本人の同意なく第三者への提供はいたしません。
- ◇ 「Mail News」の無断転載はご遠慮ください。 転載ご希望の場合はご連絡願います。
バックナンバーはHP からご覧いただけます。
- ◇ 【Twitter】 <https://twitter.com/salontetsugaku>
- ◇ 【Facebook】 <https://www.facebook.com/salontetsugaku/>
- ◇ 【ホームページ】 <http://salon-public.com/>
 - 「さろん哲学」 Web サイト <http://salon-public.com/tetsugaku/>
 - 「朝さろん」 Web サイト <http://salon-public.com/asa/>
 - 「さろん工房」 Web サイト <http://salon-public.com/koubou/>



"copyright (c) 2011-2018 さろん. All rights reserved."
